



2017年3月期 成長戦略



成長戦略3つの柱

1. 既存サービスも順調に市場が拡大している。この機に安定的な収益をしっかりと伸ばす
2. IoT/AI/Robot分野への投資を強化し、第4次産業革命の中心となる企業となる。また、あらゆる産業とOPTiMの持つIoT/AI/Robotテクノロジー・ノウハウを融合させる「○○×IT」によりITの力で新しい産業基盤を創造する
3. 合併会社設立による営業力強化による販売拡大、新サービスの創造を推進する



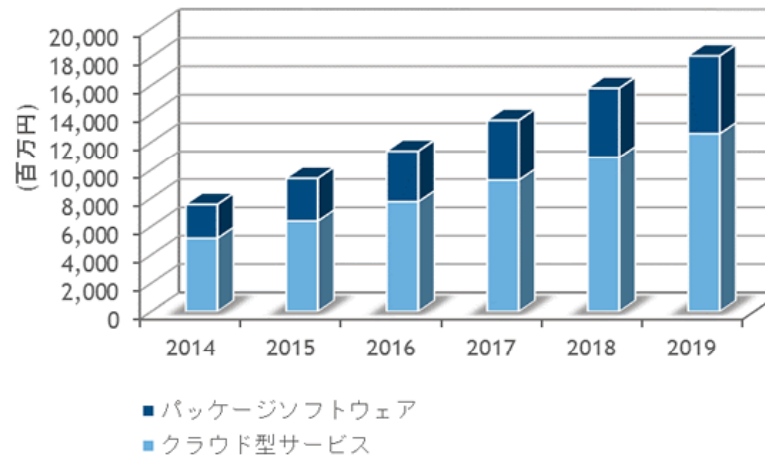
1. 既存サービスも順調に市場が拡大している。この機に安定的な収益をしっかりと伸ばす



市場環境：MDM/EMMの既存サービス市場

**OPTiMのMDM/EMMサービスは
2014～2019年度のEMM市場の平均成長率（平均19.1%）を大きくうわまって成長中**

OPTiM IoTプラットフォームサービスは、FY2014:55.6% FY2015:58.5%
さらにEMMをベースとしたOPTiM Storeで成長率拡大を企図



・IT専門調査会社IDC Japanによると、国内エンタープライズモビリティ管理ソリューション市場は2015年に94億円、2019年には181億円に達すると予測
=> MDM/EMMの既存サービスの市場は、拡大の一途をたどる予想。

・現在はデバイス管理のみの利用がほとんどであるが、今後モバイルアプリケーションの活用拡大によってアプリケーション管理のニーズが高まると予測
=> 今後、MDM/EMMの既存サービスの市場に加えて、OPTiM Storeのニーズが高まることが予想されます。エンタープライズ市場においてARPU（英語：Average Revenue Per User、加入者一人あたりの月間売上高）を拡大させていきます。

※出典：IDC Japan 国内エンタープライズモビリティ管理ソリューション市場予測（2015/10/7）

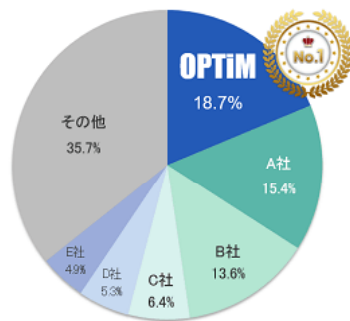
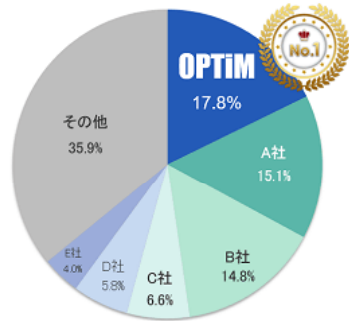


1. 既存サービスも順調に市場が拡大している。 この機に安定的な収益をしっかりと伸ばす

MDM・PCマネジメントサービス「Optimal Biz」、
IDC Japan株式会社が発表した調査レポートにて、
EMMソリューション市場売上金額シェア年連続1位を達成
(2016/4/8)

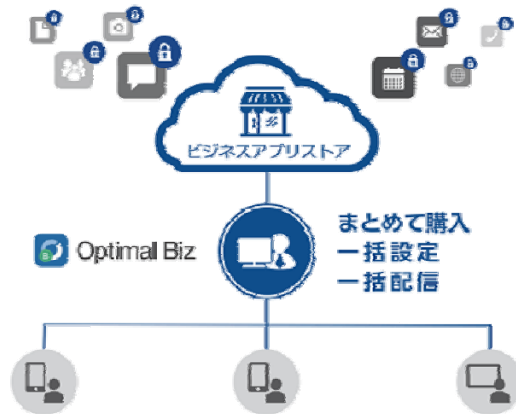
国内エンタープライズモバイル管理
クラウド型サービス市場 2013年度売上額

国内エンタープライズモバイル管理
クラウド型サービス市場 2014年度売上額

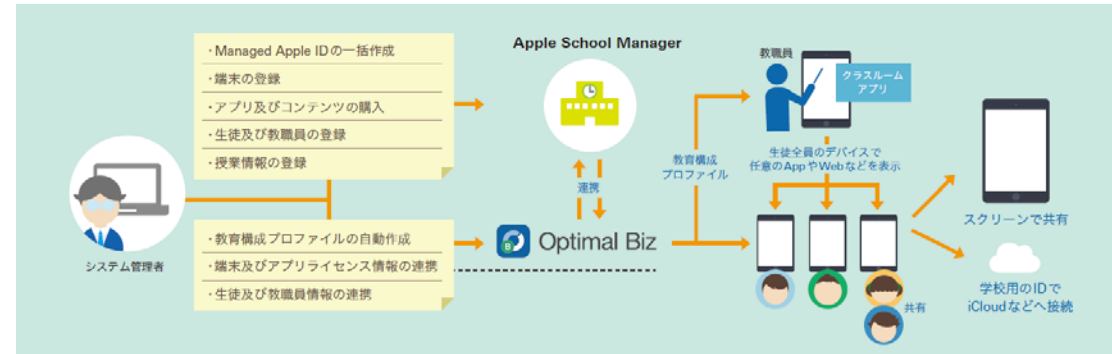


出典：IDC Japan, 2015年9月
「国内エンタープライズモバイル管理ソリューション市場 2014年の分析と2015年～2019年の予測」
(115370107)

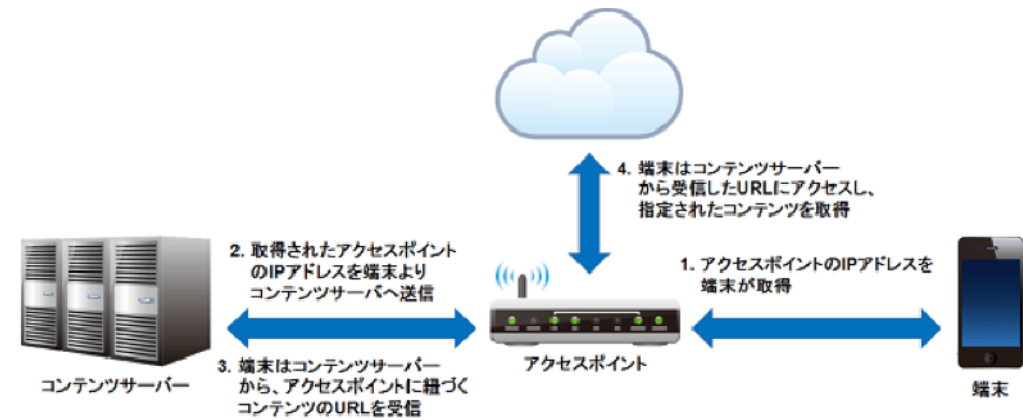
法人向けセキュア・マーケットプレイス「OPTiM Store」を
カスタマイズし、兼松コミュニケーションズが提供する法人
向けサービスストア「KCS Business App Store」を正式提
供開始 (2016/7/28)



Appleが提供するApple School Managerをはじめとした、
iOS 9.3における教育向け機能に対応したMDM・PCマネジメ
ントサービスOptimal Bizを提供 (2016/5/26)



IoTデバイスを時空間で管理する概念「Zone Management」に
て、
新たな基本特許技術を権利化 (2016/9/7)





成長戦略3つの柱

■ リモートサービス

新型ハードウェア「Telepathy Walker」をベースとした「Remote Action model W」を新たに発表（2016/6/8）



SOMPOホールディングスグループのフレッシュハウスに、世界初の遠隔作業支援専用スマートグラス「Remote Action」を提供（2016/11/17）



■ 雑誌読み放題サービス「タブホ」

販売パートナーを拡大：セブンイレブン、ローソン、サークルK、サンクス、ミニストップ、ファミリーマートなどのコンビニの他、DMM mobile、ギフトカタログのハーモニックでも販売を開始。また、JALのラウンジでも無料利用を実施。



2. 「〇〇×IT」によりITの力で新しい産業基盤を創造する

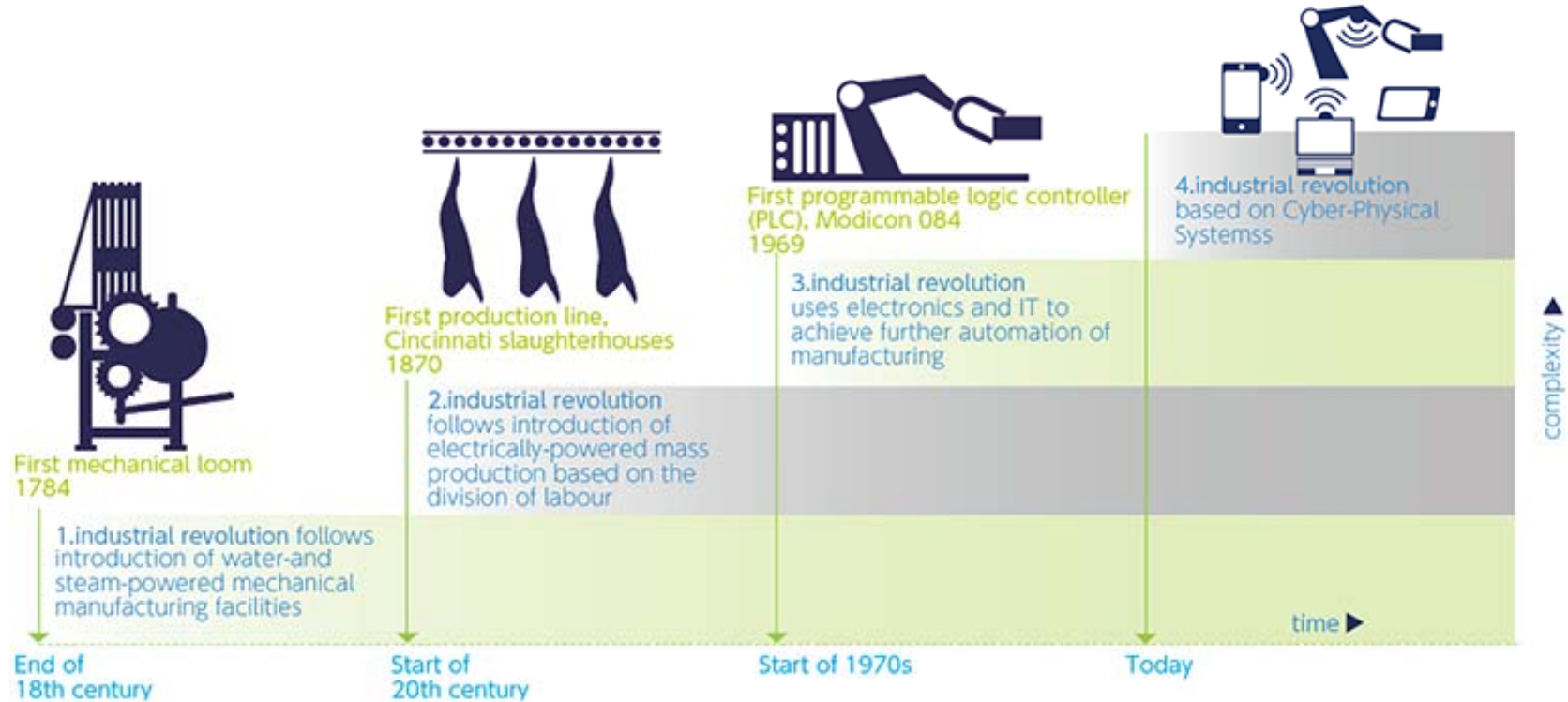
2. IoT/AI/Robot分野への投資を強化し、第4次産業革命の中心となる企業となる。また、あらゆる産業とOPTiMの持つIoT/AI/Robotテクノロジー・ノウハウを融合させる「〇〇×IT」によりITの力で新しい産業基盤を創造する



市場環境：第4次産業革命とは？

18世紀半ばから起こった「第1次産業革命」は、工場制機械工業により産業・社会を変えました。19世紀には、石油と電力の活用による「第2次産業革命」に至り、大量生産・大量輸送の幕明けとなりました。そして現代においては、ITの発展と生産の自動化などで産業構造が変化する「第3次産業革命」期と定義されています。

では、「第4次産業革命」とは？ その革命によってもたらされるのは、IoT（モノのインターネット）により、すべてのモノがインターネットでつながる世界。たとえば、工場内外のモノがネットワークでつながり、人工知能（AI）が生産を最適化させたり、需要と供給のバランスを加味して、効率的な生産・販売ルートを実行したりする世界。そんな時代が、2025年以降にはやってくると言われていています。



(出典) Forschungsunion Wirtschaft und Wissenschaft, Acatech, "Securing the future of German manufacturing industry Recommendations for implementing the strategic initiative INDUSTRIE 4.0 Final report of the Industrie 4.0. Working Group"

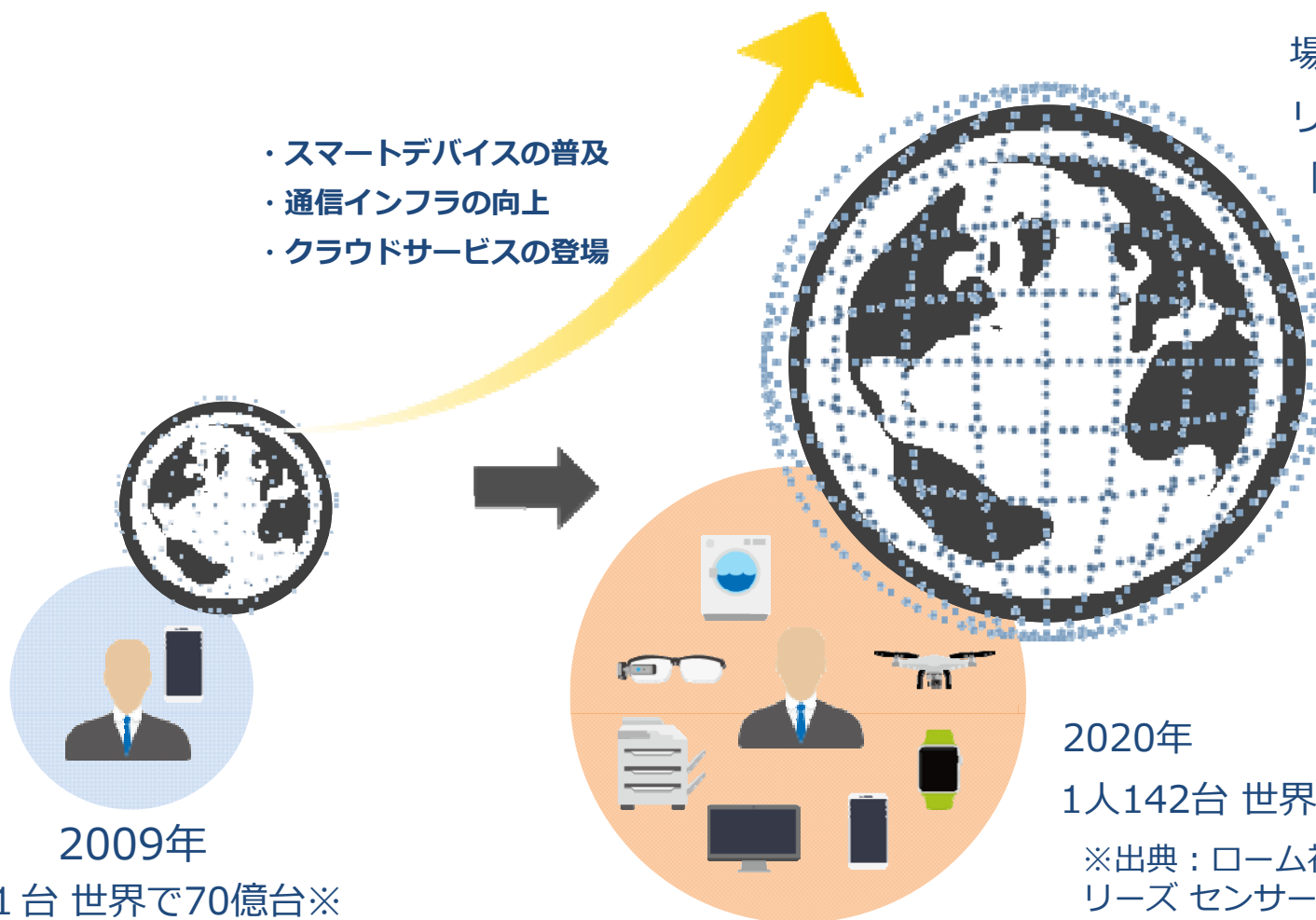


市場環境：IoTとは？

IoT（モノのインターネット）の普及により、
さまざまな「モノ」がインターネットに接続されます

- ・スマートデバイスの普及
- ・通信インフラの向上
- ・クラウドサービスの登場

場所を問わず正確な情報を
リアルタイムに取得する
「モノ」が増加



2020年
1人142台 世界で**1兆台**※

※出典：ローム社「NEハンドブックシリーズ センサーネットワーク 発行日 経BP社」より



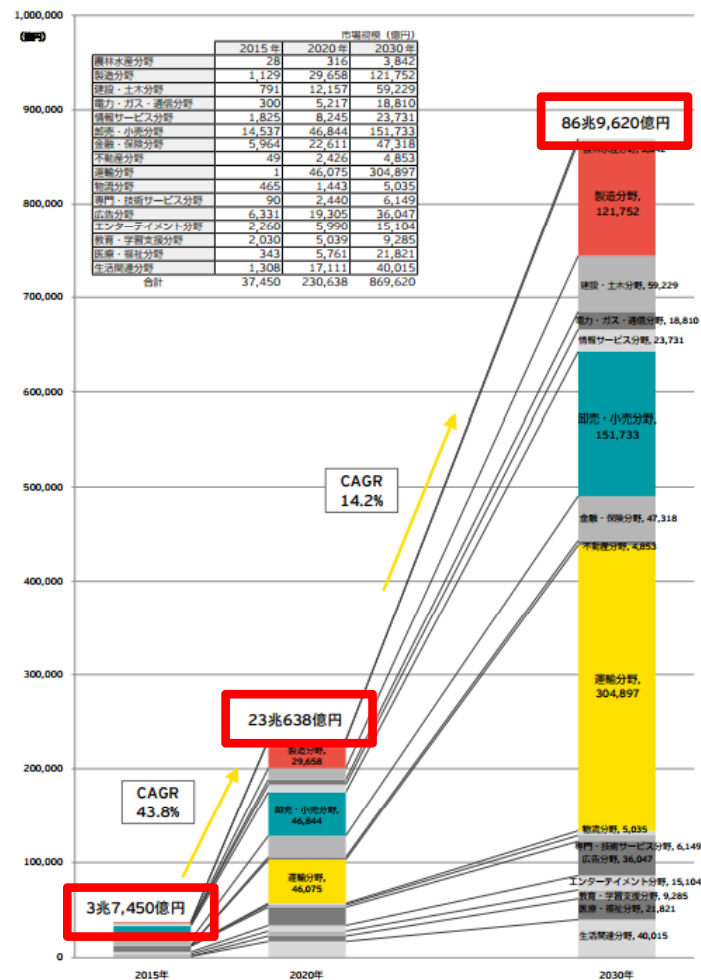
市場環境：AIの市場規模

AI（人工知能）の関連市場は、2015年には3.7兆、2020年には23.6兆、2030年には86.9兆にも及ぶとの調査結果もあり、実用化に向けた本格活用が進みつつあります。

第3次AIブームとも呼ばれる今回のブームでは、マシーンラーニング（機械学習）やディープラーニング（深層学習）による「特徴量表現」が可能となることで、今までに技術的な解決・応用が難しかったAI分野で大きな技術的ブレークスルーをおこすことが期待されています。

OPTiMでは既に画像解析AIの研究開発に着手しており、あらゆる産業と融合する「〇〇×IT」によりITの力で業界・産業基盤を再構築することに取り組んでいます。

=> 2016年度は画像解析を含むAI分野に注力を行い、技術的なブレークスルーを起こし、新たなビジネス価値の創造を行います。

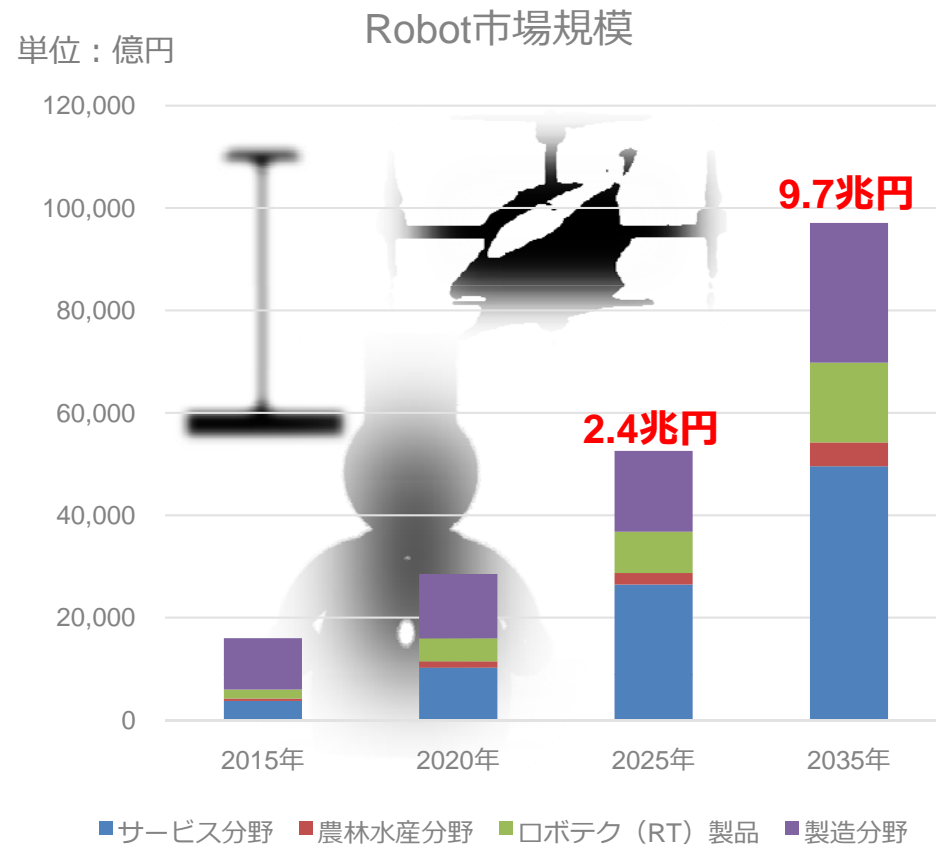


※EY総合研究所「人工知能が経営にもたらす「創造」と「破壊」」より



市場環境： Robot分野の市場規模

経済産業省の資料によると、Robot分野の市場規模は、2035年には9.7兆に達するとしています。また、政府「ロボット新戦略」（2015年1月23日）では、ロボットの市場規模を現在の6,000億円から2020年には2兆4,000億円へと成長させることを目標としています。内訳をみると、製造業で1兆2,000億円、非製造業で1兆2,000億円とすることとしています。



出典) 経済産業省「ロボット産業市場動向調査結果」を参考にオプティムにて作成



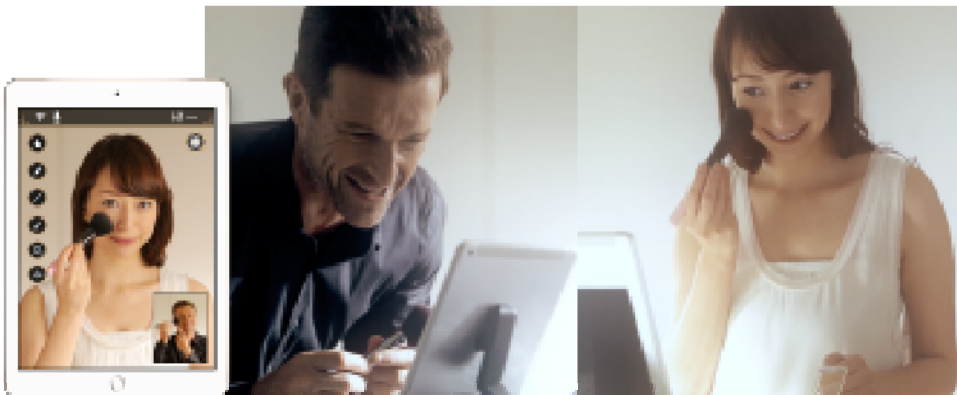
〇〇×ITの進捗

2015年度には既にあらゆる産業において、IoT/AIの新しいアプローチが始まっています

建設（コマツとの業務提携）



コスメ（パリ開催のCosmetic360出展）



農業（佐賀県・佐賀大学との産学官連携協定）



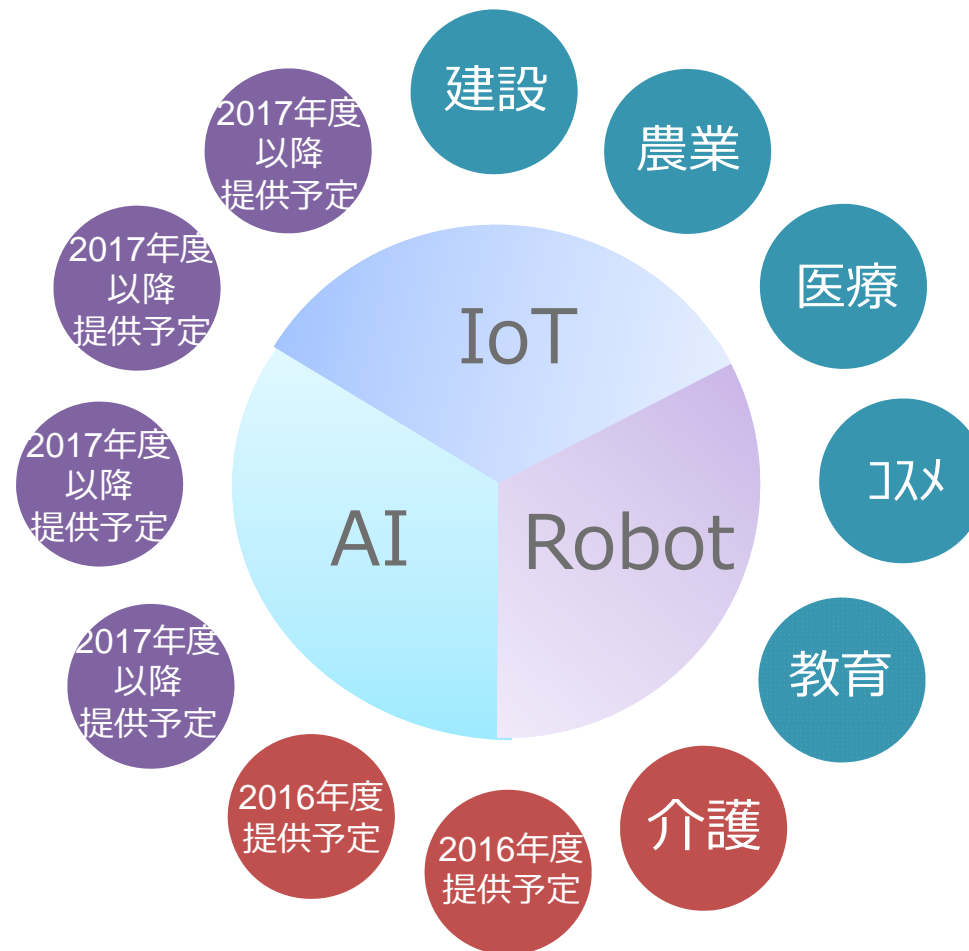
医療（MRTとの共同開発）





「〇〇×IT」による産業との融合

各業界・産業とIoT/AI/Robotを融合させる「〇〇×IT」により
ITの力で業界・産業基盤を再構築していきます

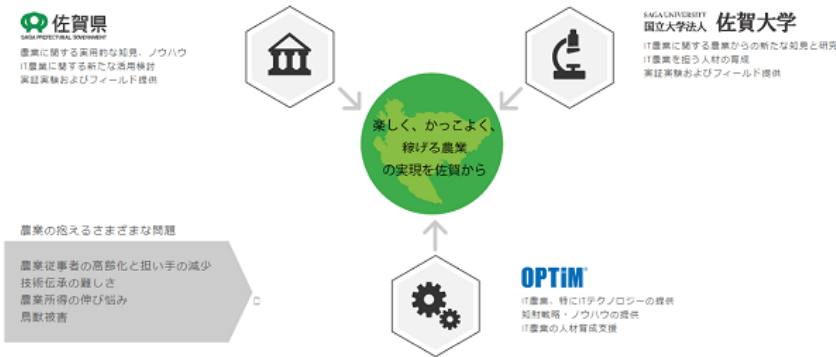




2. 「〇〇×IT」によりITの力で新しい産業基盤を創造する

■ 農業×IT

佐賀大学農学部・佐賀県農林水産部・オプティムがIoT・AIを活用した最新のIT農業の取り組みや経済効果予測、その効果を最大限発揮するための新型ドローン、ロボットを開発、生産者と消費者をつなげる野菜の新しいコンセプト「スマートやさい」などを発表 (2016/6/7)



■ 農業×IT

佐賀大学農学部、佐賀県農林水産部、オプティム、殺虫機能搭載ドローンを活用し、夜間での無農薬害虫駆除を目指した実証実験に世界で初めて成功 (2016/6/15)



■ 医療×IT

国内初となるスマートフォン、タブレットを用いた遠隔診療・健康相談サービス「ポケットドクター」、どこでも再診が受けられる「かかりつけ医診療」サービスを提供開始 (2016/4/19)



■ 医療×IT

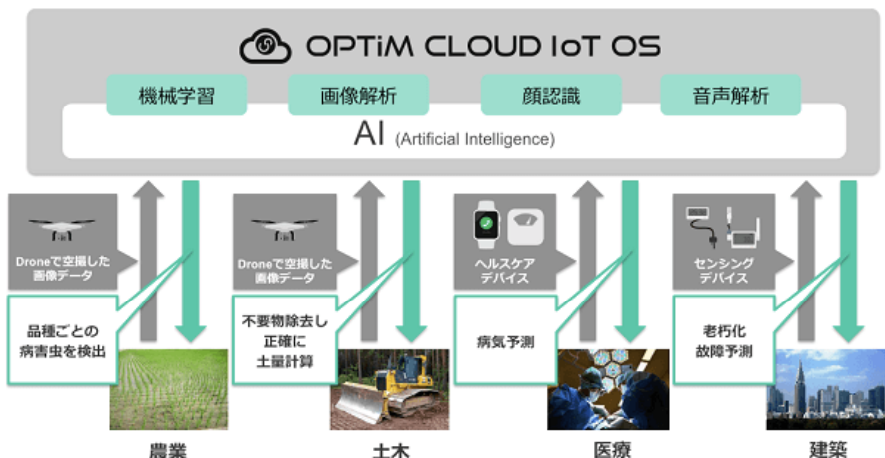
国内初となるスマートフォン、タブレットを用いた遠隔診療・健康相談サービス「ポケットドクター」、2016年7月5日より全国の専門医から健康相談が受けられる「予約相談」サービスを提供開始 (2016/4/28)



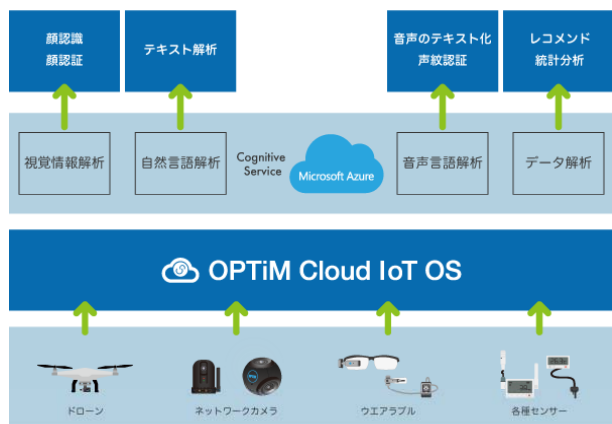


2. 「〇〇×IT」によりITの力で新しい産業基盤を創造する 実績①

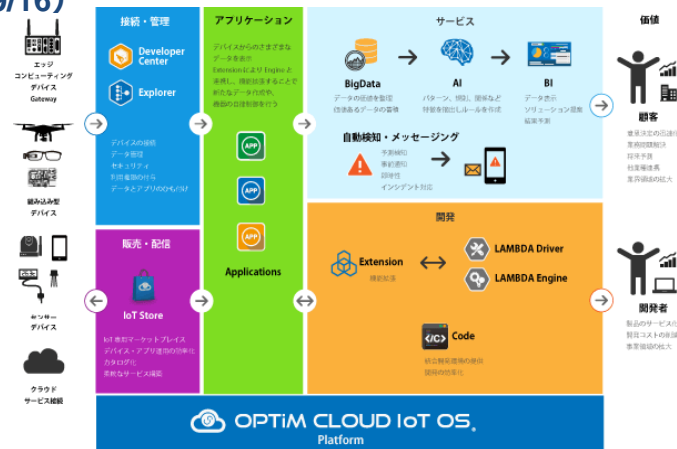
研究開発によるAI (Artificial intelligence) の知見を活かし、AIコンサルティングサービスの提供を開始 (2016/5/18)



OPTiM Cloud IoT OSがMicrosoft Azureと連携し、AI・IoTの導入・活用など幅広く対応 (2016/10/25)



Cloud IoT OSの提供を開始
パートナーはIoTプラットフォーム基盤を活用による効率的な開発可能となり、さまざまな産業分野でのサービス構築・応用を素早く実現 (2016/9/16)



「2016 Japan IT Week 秋 IoT/M2M展」のブース内セミナーにて、空席状況をリアルタイムに検知して、OPTiM独自のAIがTwitterから空席状況をつぶやくデモンストレーションを実施 (2016/10/27)



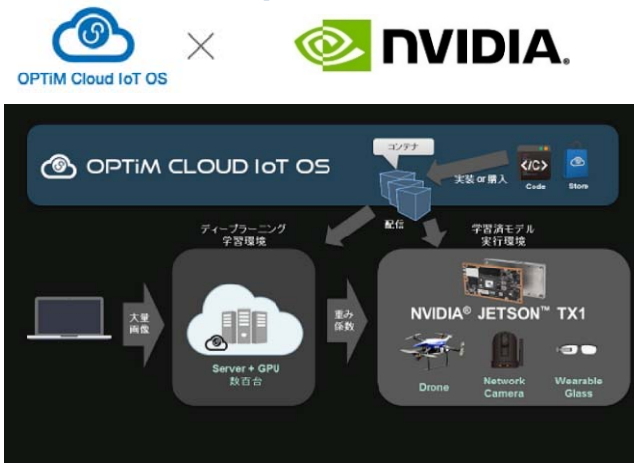


2. 「〇〇×IT」によりITの力で新しい産業基盤を創造する 実績②

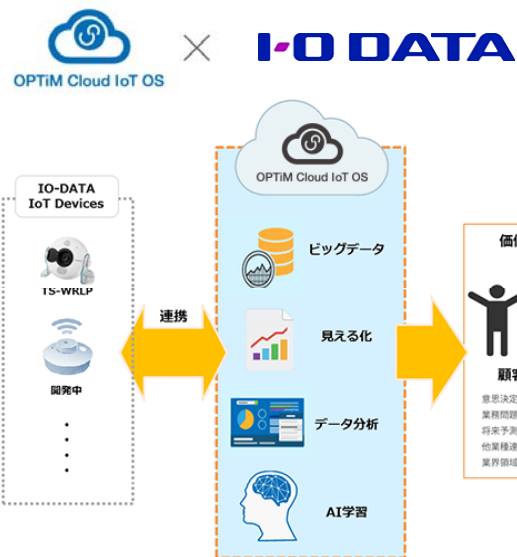
バイタルデータをAIにより分析し、遠隔医療や予防医療の発展を強かに支援 (2016/10/13)



「OPTiM Cloud IoT OS」、画像解析分野において世界初のモジュール型組み込みスーパーコンピュータ「NVIDIA Jetson」と連携し、エッジコンピューティングによるデータ処理の最適化を実現 (2016/10/17)



IoTネットワークカメラを皮切りに各種デバイスと、「OPTiM Cloud IoT OS」との連携を推進 (2016/10/21)



兼松コミュニケーションズが提供しているNetComm Wireless社製 グローバル M2M ゲートウェイ「NTC-6200」シリーズに「OPTiM Cloud IoT OS」が対応 (2016/10/18)

